

つながって

会報(第20号)【地域つながりセンター発行】
2025年1月
地域つながりセンター
〒690-0017 松江市西津田 3-5-16
☎ 0852-67-3088 FAX 0852-67-6890
【URL】<https://www.ctc-shimane.jp>

基本方針／誰もが“自分らしく生きること”を大切にして、地域の中で医療・介護、そして暮らしをつなぎ「より多くの人々が安心して住み続けられる地域づくり」をめざします。(諸団体連携による地域づくり活動や事業の推進)

正会員／島根県農業協同組合、松江保健生活協同組合、生活協同組合しまね
6つのおたがいさま(まつえ・やすぎ/いずも/雲南/大田/浜田/益田)
ひかわ医療生活協同組合、出雲医療生活協同組合(現在11団体)

オブザーバー／島根県社会福祉協議会、松江市社会福祉協議会

これからも「お互いに支えあう社会」をめざして活動していきます

地域つながりセンター 代表 石原 淳子
(生活協同組合しまね 副理事長)



あけまして
おめでとうございます。



当センターは、おかげさまで昨年7月に設立10周年を迎え、9月には構成団体の皆様のご協力により「10周年記念事業」を開催することができました。

振り返りますと「誰もが安心して住み続けられる地域づくり」をめざし、地域連携の拠

点として設立。それまでにおいても長い年月をかけ、地域の諸団体とそれぞれ関係性を積み重ね、これらの蓄積が一つの礎となり誕生した経緯があります。

そして現在、連携活動は5つになり、5つの活動もそれぞれがかけ合わさって、さらなる活動の広がりを取り組みを生み出し、地域の中でその輪を広げてきました。また、行政や各社協、地域の協同組合、諸団体や個人の方々とのつながりもより広がっています。

10周年というひとつの節目を迎えられたことに感謝し、今後も地域での諸団体連携を進め、「お互いに支えあう社会」をめざして活動していきたいと思ひます。

地域つながりセンターのロゴ決定!

ロゴ作成は・・・(松江市 坂本 瞳さん/自作の似顔絵で登場デス)



事務所が5か所なので閉じられたパーツが5か所になっています。アウトラインを一筆書きできるようにして、一体感や連携が出るようにしました!



*10周年実行委員会にて審査を行い、応募10点の中から選ばれました

記念式典 (スケジュール紹介)

2024年9月28日 12:00~16:00
(於:JAしまねくにびき地区本部営農総合センター)



記念事業は構成団体が力を合わせて運営を
そして、新たな方々ともつながって!

2014年7月28日に設立された「地域つながりセンター」も皆さまのおかげで無事に10周年を迎えることができました。

多くの方々と、諸団体連携のこれまでの経緯や歩みを振り返り、現在の取組みをさらに発展させ継続していきたいと願い取り組みました。

また、当日のボランティア呼びかけには、フードバンクでつながりのある高校生や大学生、一般の方などが手を挙げて下さったり、地域の方々が会場内での販売ブースを出展して下さったりと、多に賑わいました。

当日は、県内外から105名の参加があり、笑顔あふれる一日となりました。次の10年にむけた「新たなパワー」が湧いてくる...そんな温かい記念の日となりました。日頃よりご協力いただいているすべての皆様に心より感謝申し上げます。

第一部 記念式典

ヴァイオリンミニコンサート / 演奏: 松江市 原 夏希さん
 主催者挨拶 / 地域つながりセンター 代表 石原 淳子
 来賓挨拶 / 島根県 健康福祉部 次長 昌子 裕 様
 / 日本生活協同組合連合会 代表理事長 土屋 敏夫 様
 来賓紹介

島根県	健康福祉部 次長	昌子 裕 様
島根県議会	議員	福田 正明 様
島根県議会	議員	出川 桃子 様
日本生活協同組合連合会	代表理事長	土屋 敏夫 様
生活協同組合コープかがわ	顧問	木村 誠 様
島根県生活協同組合連合会	会長理事	矢倉 淳 様
雲南市	副市長	吉山 治 様
松江市	健康福祉部 次長	岸本 和之 様
松江市教育委員会	生徒指導推進室 室長	奥原 章公 様
出雲市	医療介護連携課 課長	板井 隆三 様
出雲市社会福祉協議会	事務局長	新宮 直行 様

祝電紹介 社福) 全国社会福祉協議会 会長 村木 厚子 様 他
 「地域つながりセンターの歩み」紹介 (事務局長)
 10周年記念 地域つながりセンター 『ロゴ』の発表



第二部 記念講演会

“おたがいさま”の広がるまちづくりをめざして
 ~自分らしく生きるための協働を考える~

講師: 大阪大学大学院 人間科学研究科
 教授 斉藤 弥生 氏

*センター5つの活動をリレートーク
 (各活動の事務局が報告)

閉会挨拶 : 実行委員会

委員長 越野 浩昭



講演会・リレートーク (内容紹介)

～講演レジメ～

1. 地域福祉と高齢者介護の政策の流れ
「ヨタヘロ期」?
2. 医療と介護と地域福祉の
コ・プロダクション:リエイブルメント
3. 参加型医療・介護調査からみた医療生協
4. 終わりに

生活課題は、個人的解決のみでなく集合的解決をめざすサービスには積極的に関わり、利用者も提供者も協働し責任を分かち合い、みんなが意見できる・・・それが(真の)地域共生社会と言える

名古屋市にある「南医療生協」の事例の紹介！おたがいさまシステム「ちやっと」は、利用者もサポーターもそれぞれにとって、困りごとの解決・生きがい・やりがい・学びが生まれる＝「社会的価値」を創出しているとのこと

“おたがいさま”の広がるまちづくりをめざして

～自分らしく生きるための協働を考える～

大阪大学大学院 人間科学研究科
教授 齊藤 弥生 氏

- * 1919年、農村・貧困層にも医療を!と日本で初めての協同組合医療(産業組合)が島根県青原村(現津和野町)に設立された
- * この協同組合医療は専門職と住民が対等で日本特有(世界に例を見ない)
- * JA長野厚生連 佐久総合病院や隠岐郡西ノ島社協と隠岐島前病院の事例紹介など
- =「病棟でやっていることは家でも」を紹介

有償たすけあい「おたがいさま」支援<2014年～> 県内の「おたがいさま」6団体の研修・交流

報告:支援チーム(センター幹事)清原 春美

- コロナ禍では、本音や気持ちが出せるアンケート実施
＝心の内を文字にして出すという行為を通して改めて自分と向き合う時間を持つことになり、押し込めていた気持ちを少しは開放する機会を作ることができた
そのことが、その後の活動継続の力にもなった
- 2019年度 賀川豊彦記念財団「賀川豊彦賞」奨励賞受賞
- 今後、行政や関係機関・他団体への情報発信や提案も視野に入れ、積極的に支援活動をしていきたい

なないろ食堂・寺小屋 <2016年～> 湖東中・大庭小・大庭公民館で開催

報告:なないろ食堂 事務局長 吉川 郁子

- プレ企画をスタートし、8年が経過。当時小学校低学年だった子が高校生になり、その弟や妹たちが今は参加している
- コロナ禍で、会場利用が不可となり、どうしたものかと立ち止まっていた時期に大庭地域の方々のネットワークで湖東中学校が利用可に。地域で継続に向け後押しして頂く
- 調理ボランティアも大庭地区民児協等、地域の皆さん!
- 民生児童委員さんやスクールソーシャルワーカーからの紹介もあり、困難を抱えている子どもたちも来てくれる
- どの参加者にとっても心地のよい居場所であるようにと見守っている。スタッフも成長していく子どもたちの姿や変化に喜びや感動をもらいつつ、参加している

子どもの笑顔応援基金 <2022年～> 生活にお困りの家庭への生活支援・レスパイト応援

報告:基金事務局 高橋 玲子

- 困ったときや休憩したい時に、有償たすけあいを通じて他の人とつながり、手伝ってもらうしくみ(1時間=100円)
- これまでの利用は、学校の送り迎え・お母さんが帰宅するまでの小学生のお世話・買い物や料理を作る・家の掃除・片付け・草取り・草刈り・子どもの学習支援など
- 勇気を出して、連絡してほしい。「手伝って!」と声を出して

出雲地域交流会 <2016年～> 出雲で団体交流の「プラットフォーム」に

報告:ひかわ医療常務 大林 由美

- 出雲地域の住民主体の助け合い活動のプラットフォームになりたいと毎月の活動交流を8年間続けてきた(現在9団体)
- 助け合いチームでは市社協と共に、市ケアマネ協会や包括支援センター、市医療介護連携課も参加の事例検討会の学習や交流を企画。また、他の助け合い団体にも呼びかけ「担い手確保作戦会議」を3回実施。以降、活動17団体の共通課題として掲げられ、市全体で取り組まれることとなった
- 出雲市内で活動する団体のフードバンク・フードドライブ活動の交流を目的とした集まり(第2回交流会)を企画予定

NPO フードバンクしまねあったか元気便<2018年～> 松江市内小中24校・就学援助世帯560世帯へ

報告:あったか元気便事務局 大木 理之

- 小中学校や地域の協力、広く100を超える企業・諸団体・公民館・個人の賛助や寄付、ボランティアなどの参加協力あり
- 利用者の声からは、様々な困難や状況が見える。日々の食費や学費の負担の大きさ、親は医療費を削る・・・他にも
 - ①学習の理解や、高校進学への不安(塾代負担も困難)
 - ②様々な体験や楽しいイベントなどに参加しづらい
(親自身が忙しく予定を組んだり考えたりが負担)
 - ③困ったときに手伝ってくれる人、相談できる人がいない
(一人で、育児・家事・仕事をこなし、休む暇もない)
- これらの切実な声から支え合うしくみとして下記をスタート!
 - ①地域の公民館で寺子屋(お昼ごはん付き)/地域の人と高校進学のための応援塾(無料・弁当付き)/NPOや島大と
 - ②県大の音楽会の取組みの紹介・田植えや稲刈りの体験・パーベキュー&カヌー体験・クリスマス会等(情報・企画)
 - ③レスパイト応援(有償の助けあいを1時間100円で提供)

閉会挨拶:10周年実行委員会 委員長 越野浩昭

(JAしまねくにびき地区本部 地区本部長)

この10年間、構成団体は連携活動に向けそれぞれ持てる力を注いできた。JAも設立時より関わっており、地域連携活動にとって、活動の拠点となる会場の提供も多々している。拠点となる場があることは非常に重要だと再認識した。今後も、それぞれの団体の特性や強みを生かしながら協働していきたい。

参加された方の感想 ご紹介

特に講演会の中にありました「押しつけ」の地域主義社会と(真の)地域共生社会の見分けがつきにくいという点については、身に詰まされる思いがいたしました。(公民館主事 1さん)

齊藤先生のお話を拝聴し改めて感じたことは、現代の日本は個人が尊重されている分 地域とのつながりが薄れ、助けを求めにくくなっていることでした。そのことが日本の様々な問題を生み出しているように思います。強くない個人が生きづらい社会では、子ども達に明るい未来を感じさせてあげられない気がします。そのような中、地域つながりセンターさんのような、助けを求められる存在は本当に大切だと思います。(県職員 Fさん)

改めて 私たちの活動って全国的にも誇れるものなんだという認識をもちました。齊藤先生の講義で、社会変化、制度の変化…民間主体の特徴、自分の中で少し整理できました。求められているもの、つなげていくもの、広げる役割などです。(民生委員 Yさん)

地域つながりセンター 10周年記念 式典および記念講演会

決して弱者支援ではなく、困った時は「おたがいさま」。活動の本質を知ることができました。(Mさん)

地域の中で高齢者の一人暮らしや子どもの貧困が増えているという話を聞く度に、これから先の地域を不安に思っていました。けれども地域の中にはお互いに助け合う活動や人同士のつながりが広がっていることを知り、あたたかい気持ちになりました。(大学生 Mさん)

出雲地域交流会に参加しています。諸団体とのつながりから、一緒に考えたり、課題や意見を出し合い進めていくことは、団体ごとに違う視点や考え方があり、刺激になったりわくわくしたり、聞いたことを自団体に持ち帰って活動に活かせるヒントにもなったりします。(おたがいさま Tさん)

今回の会の雰囲気の中で感じたのは「女性」の力です。もっといろんな議論、行事に女性が参加すると社会は変わってくると感じました。(雲南市 Yさん)

*ご参加の皆さんから、率直な感想、ご意見をたくさん頂きました。本当にありがとうございます。

ボランティア 大募集

「あったか元気便」春の作業*2月20日〆切

	月日(曜日)	時間帯	会場
第1パッキング	3月3日(月)	10~13	大輪子どもハウス
第2パッキング	3月4日(火)	10~13	大輪子どもハウス
第3パッキング	3月5日(水)	10~13	大輪子どもハウス
第4パッキング	3月10日(月)	18~20	いきいきプラザ体育館
第5パッキング	3月13日(木)	15~17	いきいきプラザ体育館
第6パッキング	同上	18~20	いきいきプラザ体育館



同封の赤い羽根テーマ募金にもご協力お願いします!



賛助金のご協力 宜しく願います

今年度 賛助会員 (12月現在)

(個人) 39名 (団体) 12 件

団体 1口 5,000円 (1口以上)
個人 1口 1,000円 (1口以上)

*各活動への任意の寄付も大歓迎!

*下記口座振込か、ご持参下さい

郵便局 赤い振込用紙です

口座記号 1360-1 103310

加入者名: 地域つながりセンター

後記) 昨年末、浜田市金城町にある、美又共存同栄ハウスを見学する機会がありました。そこは昭和12年に地域住民が資金や土地を出し合い建築した 旧美又信用購買販売組合事務所(農協さん)とのこと。このたび「仲間と何かをやってみる施設」として、外観は当時のままりノバージョンし再出発。

案内してくださった島根県立大学の田中輝美先生の話は、仲間と何かやってみるごとの意味や広報との向き合い方など新たな気づきがありました。

当センターも仲間と何かやってみたい人大歓迎です。(近くの美又温泉は2024年温泉総選挙うる肌部門、日本一に輝きました。「つや姫」のようなお肌は永遠の憧れではありますが…)〈清原〉

